

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 30 年 3 月 27 日改正
(平成 30 年 4 月 1 日適用)

①第三者評価機関名

NPO 法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと

②施設・事業所情報

名称：放課後デイサービス虹色スケッチ	種別：障がい児通所支援	
管理責任者：長野達矢	定員（利用人数）：10名	
所在地：岐阜県可児市川合北1-70 ミドリヤビル		
TEL：0574-60-3577	ホームページ： https://www.nijinohashi.co.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 平成26年8月1日		
経営法人・設置主体（法人代表者）：株式会社サーバント（代表者 千住敏晃）		
職員数	常勤職員：4名	非常勤職員 3名
専門職員	（専門職の名称）	
	社会福祉士 1名	看護師 1名
	精神保健福祉士 1名	保育士 1名
施設・設備 の概要	（居室数）	
	3部屋	
	（設備等）	
	キッチン（調理器具） プロジェクター	

③理念・基本方針（※転載）

理 念：真を磨き真を貫く。愛を以って動ず。

幸たるは真の人として成長なり。

基本方針：私たちは子どもたちの可能性を信じて、日々の支援に熱い心で全力投球いたします。

<ビジョン> 愛が一番、笑顔が絶えない活気が響きあう。

<私たちの約束事> 一つ、卑怯な振る舞いは一切致しません。

一つ、無理強いは一切致しません。

一つ、ほめて、はげまして、長所を伸ばします。

一つ、常に気配り、目配り、心配りを怠りません。

一つ、あいさつ、返事をきちんとおこないます。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

株式会社サーバントは本社が可児市にあり、可児市、美濃加茂市、下呂市を拠点に運営している。放課後デイサービス7か所、児童発達支援1ヶ所、短期入所施設1ヶ所、高校通信教育サポート校、こどもリハビリクリニック、ホースセラピーの取組と、法人代表が医療・福祉・教育の三本柱をビジョンにした結果の多機能な事業展開が行われて

いる。

法人顧問には弁護士、司法書士、税理士、社会保険労務士の各種専門職を配置しており、コンプライアンスの体制を万全にしており、特に虐待についての研修に力を入れており、毎月、職員基礎行動自己チェック表で利用者の権利侵害につながる行動を自覚し、権利侵害の防止が徹底されている。

法人全体で取組む夏祭りや年1回のバスを借り切った親子遠足も職員と保護者、保護者同士の交流の機会となっており、子どもたちが社会でのルールを学ぶ活動にもつながっている。

その中であって、虹色スケッチは早期就労支援体験型の放課後デイサービス事業所である。利用児は中学生から高校生で近い将来、社会の一員として生活できる支援に全力で向き合っている。

障がいの特性を理解し、必要な関係機関と密な連携をし、保護者への信頼関係の構築にも熱心に取組んでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成30年6月15日（契約日）～ 平成31年2月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	今回が初回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

（関係機関等との連携）

誤学習による問題行動を引き起す利用児に対し、その特性を十分理解し、職員間で情報を共有し、その行動を制すのではなく受入れの姿勢を持ち、関係機関と相談しながら支援している。関係機関のひとつである精神科医と直接相談できる関係にあり、保護者からも信頼されている。

（利用児の特性を理解した支援）

氷山モデルシートで適切なアセスメントを行い、個別支援計画を作成している。障がいの特性を理解し、SSTスキルで子どもの変化を保護者と共有し、親の変化にも働きかけている。

（職員の就業環境）

職員のワークライフバランスに配慮し、希望する休暇の取得が出来る環境にある。職員寮も整備されており、独身者や居住地が遠距離の職員など6名が利用できる。

業務で必要な外部研修や内部研修、自ら望む研修等、年2回以上参加することを奨励し、研修費用は法人から支給される。また、職員制服もデザイン性があるTシャツが定期的に配布されている。

（業務の効率化とセキュリティ対応）

法人本社への報告にIT機器を使い、会議はテレビ会議で一斉に伝達等を効率的に行っている。その情報は本社から各事業所に配信され、情報の共有が図られている。情報機器のセキュリティは万全である。

◇改善を求められる点

(ヒヤリハット事例の記録に期待)

ヒヤリハット事例はその場で職員間で共有し、その後の対応に活かしているが、ヒヤリハットを記録として残す時間的余裕がないとのことであるが、事故が発生した時の労力は記録の比ではない。リスクマネジメントの一環としてヒヤリハット事例も記録に残されたい。

(修繕と活動の再開に期待)

安全性と快適性は対極になることもあり、利用児の特性を見極め慎重に対応する必要があるが、適切な支援で行動の改善につなげ、修繕に取り組めることを期待したい。また、以前行われていた調理活動が休止している。折角調理台の設備が整っているので、利用状況を見据えて活動の再開に期待したい。

(組織としての人材育成の取組に期待)

法人として研修参加や資格取得を奨励しているが、職員一人ひとりの力量に差があってもそれに合わせた育成の取組が、管理者に任されている現状にある。まずは職員一人ひとりが自己評価し、目標を立て、定期的に管理者が面会するシステムの構築から取り組まれない。開設当初から毎年事業所数を増やし、ますます組織が大きくなってきている今だからこそ計画を持って総合的な人事管理と個別育成の人材育成の取組に期待したい。

(中長期計画や事業計画の文書化に期待)

中長期計画や経営、人事等は法人代表のトップダウンでスピード感を持って運営が進められ、文書化の作業は後回しになっている。必要な情報や伝達はテレビ会議を通して迅速に対応している点は評価できるが、組織が大きくなればなるほど、事業計画や経営方針等を文書化したもので職員へ周知を図り、定期的に職員の意見や要望等を聞く機会を設け、それを法人全体会議に挙げ運営に反映させていく取組に期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、外部の評価が初めて入ったことにより、「外からの目」が詳しく分かりました。このように第三者に入室していただき、良い点、改善点を見つけていただくことは今後のサービス提供に関して役に立ちます。また、第三者に入室していただくということは、虐待防止にもつながります。いつ来ていただいても良い、自信を持てる事業所作りを心がけていきます。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。